



誰もが住みよいまちをめざして 「リフォームプランおおよど」の策定

基本的な考え方

リフォームとは？

このたび、大淀町における新たな行財政改革の指針を

リフォームプランおおよど ～『誰もが住みよいまち』をめざして～

の名のもとに策定しました。

リフォーム＝R e f o r m

- ①基盤は維持しつつ、社会制度や機構・組織などをあらため変えること
- ②よりよくあらためること

※ 最近、「リフォーム」という言葉がよく使われます。

人が生活を営むうえで、ライフスタイルや家族の状況は常に変化していきます。その変化や将来の生活に対応するために、既存の住宅を有効に活用しながら、リフォームする家庭が増えています。

では、大淀町を取り巻く環境はどうでしょう。ここ数年で地方分権、住民ニーズの多様化や高度化、環境問題、少子高齢化問題、財政問題など、大淀町の内外の環境が大きく変化しています。このような状況は、まさしく「リフォーム」の転機であると言えます。

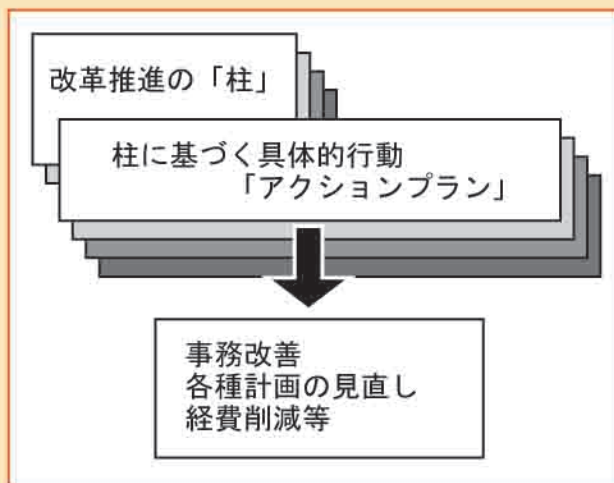
これまでの大淀町の行財政運営の基盤は維持しつつ、今後予測される状況を見据えながら発想の転換を図り、『誰もが住みよいまち』をめざして、大淀町をリフォームします。

リフォームの推進

今回の大淀町行財政改革は、改革の方針と具体的な行動計画をより整合性のとれたものにするとともに、大綱や実施計画といった既存概念や形にとられない改革とするために、『リフォームプランおおよど（以下「リフォームプラン」といいます。）』を行財政改革推進計画として位置づけました。

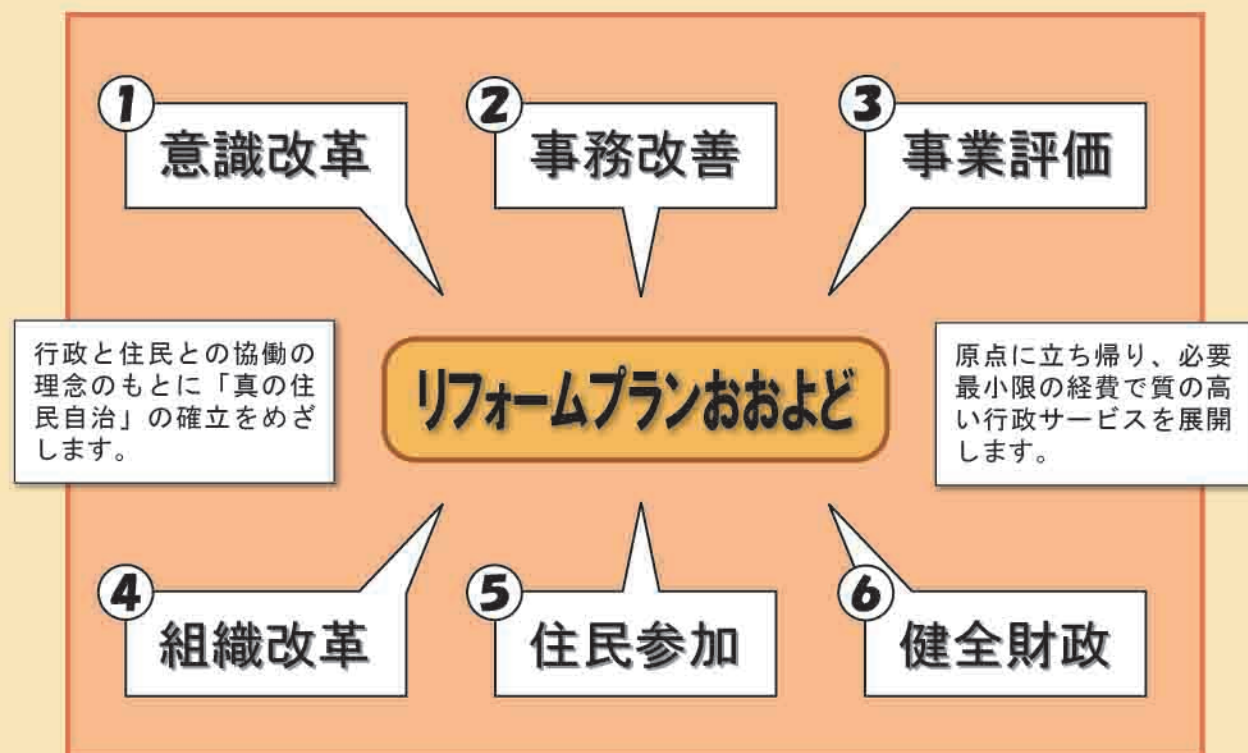
また、リフォームプランでは、改革の基本方針及び視点を『柱』とするとともに、『柱』に基づく具体的な行動を『アクションプラン』として位置づけました。

今回のリフォームプランでは、①意識改革、②事務改善、③事業評価、④組織改革、⑤住民参加、⑥健全財政という6つの柱を掲げ、各柱に合計26項目のアクションプランを設けました。



※詳細は10ページを参照ください。

リフォームするための6つの柱



リフォームの期間

大淀町を取り巻く環境は、内外的な要因により町制施行以来もっとも厳しい状況であると言えます。また、その状況は今後もより一層厳しいものとなることが予測されるので、中長期的な視点に立った抜本的な改革が必要です。

今後の税財政の状況に対して敏感に反応するため、リフォームプランの計画の期間を平成17年度から平成19年度までの3年度間とします。

平成20年度以降の計画については、リフォームプランの進捗状況を踏まえながら、計画の期間が終了するまでに策定をめざします。

平成17年度 . . . 実行（アクションプランの実施）

平成18年度 . . . 検証（達成度の検証及び分析）

平成19年度 . . . 見直し（計画の見直し及び次期計画の策定）